

宮ノ陣ビオトープ新聞

第 12 号

(2025 3 月)

宮ノ陣学びのビオトープ

2016 年 9 月創刊 不定期発行

発行

くるめハイトラスト株式会社

久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番地

〒839-0805 TEL0942-27-7515

協力 株式会社エコプラン研究所

宮ノ陣学びのビオトープから生き物や季節の情報をお伝えし、豊かな久留米市の将来へのライフスタイルを提案する新聞。

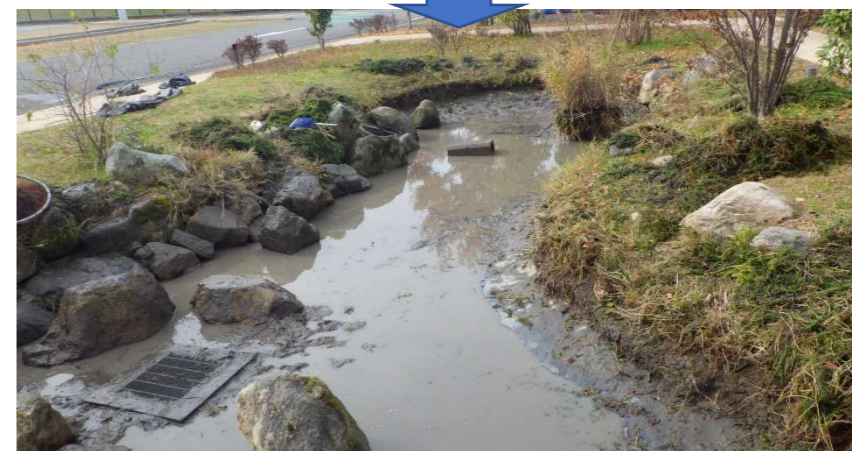
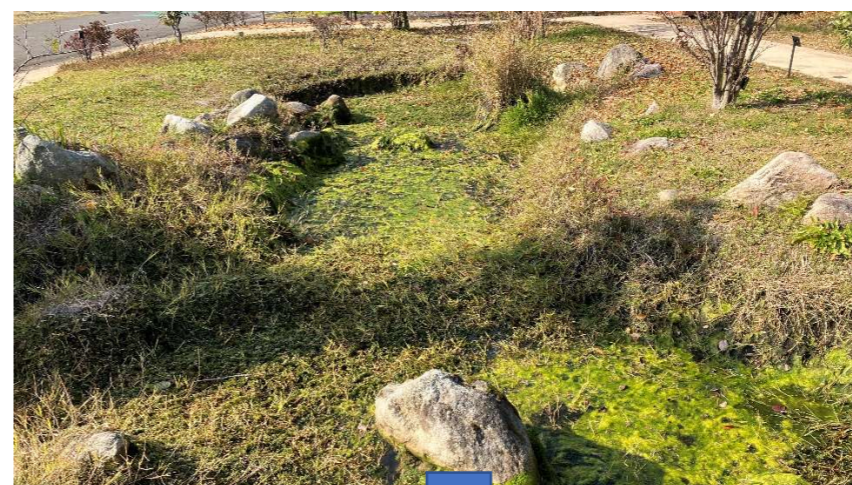
ビオトープは、魚類だけでなく、両生類、貝類や水生の昆虫など絶滅危惧種を含む多くの生き物が生息できる貴重な場所の一つですが、外来種の水草・オオカナダモが水面を覆い尽くすほど繁茂し、それらの生き物が生息しづらくなっていました。毎年行なう池干しは、ビオトープの池内の生き物の種類とおおよその数量を確認すると同時に、水質や土壌の浄化、外来種や水草の除去など、複数の目的があります。作業は、生き物の生息状況を確認しやすくするため、池の水位を低くし、水草を除去することから始めます。水草の除去後、網を使って生き物を捕獲し、確認したところ、気にならなっていたカワバタモロコは、一〇八匹、コガタノゲンゴロウも一二〇匹と、前回は大きく上回る数量がいました。絶滅危惧種だけではなく、指定されていない種も含め、多くの種類が生息していることも重要で、魚類が五種、底生動物が十二種、カエルが一種、確認できました。生息していた生き物および毎年の変化については、下の表をご覧ください。

表 池干しで確認した主な生物

分類	種名	数量						備考
		第7回 2024.12	第6回 2024.3	第5回 2023.2	第4回 2022.2	第3回 2021.1	第2回 2019.12	
魚	カワバタモロコ	108	14					絶滅危惧ⅠA類(福岡県)、絶滅危惧ⅠB類(環境省)、特定第二種国内希少野生動植物
	ツチフキ	73	67	58	34	94	約30	準絶滅危惧(福岡県)、絶滅危惧ⅠB類(環境省)
	モツゴ	251	109	約300	約100	183	約100	
	ミナミメダカ	143	55	687	約100	210	500以上	準絶滅危惧(福岡県)、絶滅危惧Ⅱ類(環境省)
	ヒメダカ	3	-	-	-	-	2	
底生動物	ミナミヌマエビ	数えきれないくらい多数	430	数えきれないくらい多数	数えきれないくらい多数	数えきれないくらい多数	数えきれないくらい多数	
	ヤゴ(クロスジギンヤンマ)	-	-	-	3	-	約10	
	ヤゴ(ギンヤンマ)	70	2	-	1	7		
	ヤゴ(オオヤマトンボ)	2	-	5	-	-		
	ヤゴ(シオカラトンボ)	30	28	59	15	10		
	ヤゴ(コオニヤンマ)	-	1					
	ヤゴ(イトトンボ科)	-	-	1	1			
	ヤゴ(クロイトトンボ)	1						
	コガタノゲンゴロウ	120	15	-	100以上	110	約50	絶滅危惧Ⅱ類(福岡県)、絶滅危惧Ⅱ類(環境省)
	ウスイロシマガンゴロウ	20	8	1	2	10	5	準絶滅危惧(福岡県)
	ヒメゲンゴロウ	1	-	-	1			
	ヒメミスカマキリ	-	-	-	-	-	2	
	ミスカマキリ	-	-	1	-	1		準絶滅危惧(福岡県)
	ヒメガムシ	20	21	-	4	10	約10	
	キイロヒラタガムシ	-	-	-	2			
フタバゲロウ	-	1						
カワニナ	100	12	112	50以上	107	約30		
シジミ属	-	-	1	1				
カエル	ヌマガエル	-	-	-	1	1		
	ニホンアマガエル	1						※初確認
備考	外来生物は オオカナダモ(水草)、ハブタエモノアラガイ(貝)、フロリダマミズヨコエビ							

絶滅危惧種カワバタモロコの繁殖を確認!

宮ノ陣学びのビオトープでは、池内に生息できる生き物がくらす環境を整えるために、様々なテーマで学習や実践活動を行う中で、ビオトープの池の水を抜いて、生態系の保全や水質を改善するための「池干し」を定期的に行っています。すつかり恒例となった第七回目になる池干しを二〇二四年十二月に行い、二〇二〇年に放流された絶滅危惧種カワバタモロコが繁殖し続けていることを確認しました。



水草の除去前(上)と除去後(下)



カワバタモロコ

宮ノ陣学びのビオトープ(以降「ビオトープ」)において、二〇二四年十二月十一日、池の水を抜き、オオカナダモを除去するとともに生物調査を行いました。ビオトープでは、二〇二〇年七月に、筑後川水系の周囲の限られた地域の農業用水路に生息し、絶滅危惧ⅠA(福岡県)に分類されるたいへん貴重な魚類カワバタモロコの成魚を放流しました。今回の調査では、カワバタモロコと同じく絶滅危惧種に指定されるが減少傾向であった昆虫・コガタノゲンゴロウがどのような注目を集めたかを確認することができました。結果としては、いずれも多くの個体を確認することができました。